１	（提出者：財団法人日本野鳥の会　大阪支部）

私ども、日本野鳥の会では、水鳥の重要な生息地である干潟や湿地の自然を守る活動を重点事業として取り組んでおります。

さて、本年、貴委員会により審議されます「堺泉北港泉北６区緑地整備事業」につきましては、私どもが地元の野鳥保護団体である「泉大津に野鳥園をつくろう会」とともに、干潟環境をいかした野鳥園としての整備を働きかけてきたものであります。

当該地区は、1980年から約10年間、大阪湾岸における重要な水鳥の生息地として機能していました。ピーク時（特に埋立て工事の中断により良好な干潟環境が出現した1985年頃まで）は、天然記念物のコクガンや、特殊鳥類のハヤブサをはじめ、レッドデータブック記載種のツクシガモの渡来など、シギやチドリ類などの水鳥を中心に120種類、3000羽の野鳥の生息が確認され、「埋立地によみがえった野鳥の楽園」として、広く府民に知られるところとなりました。またレッドデータブック記載種のコアジサシの府下最大級の集団営巣地となっていました。

1990年に先端緑地の主要施設として野鳥園を整備する旨が府の港湾局より正式に提示されてから既に10年が経過しており、本会としましても早期に野鳥園の整備を望むところでありますが、今回の再評価にあたっては、下記の点に特にご配慮のうえ、「野鳥園」をより明確に位置づけていただけるよう要望いたします。

１．　干潟環境の復元を重視した公園整備を行うこと

・全国的に見ても、最も干潟が失われてしまった地域である大阪湾に、その原風景である干潟環境を復元し、人と海のつながりを取り戻すことが重要な課題、野鳥園の実現はその第一歩となるもの

２．　野鳥の安定した生息に欠かせない多様な餌生物の生息と、人の干渉を受けないエリア設定を実現するために、野鳥園の面積は可能な限り大きくとること

・緑地公園の７ｈａの内、野鳥園部分が約４ｈａというのが狭小すぎる多目的の要素を盛り込むのではなく、野鳥園に重点をおいた計画とすべき